

地域づくり考房 

ゆめ通信

{ Vol.055 }
2025 3.21

特集 ONE TEAM プロジェクト・あるぷすタウン

学生プロジェクト活動紹介(YUME column) / 地域づくり考房『ゆめ』の20周年に想う



地域づくり考房「ゆめ」
キャラクター こう坊

考房『ゆめ』は松本大学の
全学生を対象に、学生と地
域住民とのふれあいを大切
にして取り組む地域連携活
動の支援を行っています。

ごあいさつ

『ゆめ』の学生は地域活動でどのような行動をとってきたのでしょうか、思い出すままに今年の動きを記してみましょう。「懇談する、見学する、交流する、手伝いをする、企画する、共同作業をする、教えを乞う、相談する、相談を受ける、ともに悩む、ともに喜ぶ」ざっとこんな姿があった

ように思います。もちろんこれらの行動パターンは一つではありませんし、徐々にその行動は変化していきます。その意識は「他人事から自分事」への変化ですし、「地域を好きになる」ことからくるものです。このように「地域で学ぶ」意義を学生は行動パターンで示しています。それは地域を愛し地域の目線に立った誠実な姿で活動していくことにほかなりません。地域活動が建前で終わって途切れてしまうような例を見聞しますが、本学の地域活動はどんな時も本音で地域と取り組む継続活動です。本音で取り組んでいる学生の活動をご一読いただければ幸いです。

(専門員 大野 整)





ワン チーム ONE TEAM プロジェクト

概要

地域づくり考房『ゆめ』では、学生の地域活動の「第一歩」として、「ONE TEAMプロジェクト」を企画しています。地域に生きる人々の想いを知ることを目的に、様々なテーマのもと活動しています。今号では、11月から2月までに行った活動を紹介します。



11月 秋のバスハイク 景観・風情・美意識+食を楽しむ小布施への旅



秋 秋のバスハイクは新村地区あたらしの郷協議会の後援をいただき、地域の方25名、学生12名が参加して小布施町へ向かいました。小布施町は1年に町人口1.1万人の100倍以上の観光客が集まります。浮世絵師の葛飾北斎やそのスポンサーとなった地域の豪商 高井鴻山氏のほか、町に関わる美術を地域資源として街並みに取り込み、和風の「おしゃれ」さを演出しているのが特徴です。来た人が「いい町だな」と感じる地域づくりを進めてきたそうです。

最初に訪れた梅洞山岩松院の本堂天井絵には江戸末期に描かれた「八方睨み鳳凰図」が鮮明な色で残されています。「画狂老人記」(北斎の画号、平均寿命40～50歳当時に驚異の89歳の時)が描いた21畳分の最大規模の作品です。裏庭には小林一茶の「痩せかへるまけるな一茶 是にあり」の舞台となった蛙合戦の池があり、詠まれた

句の真意を聞き、涙する参加者もいたとかいないとか。お坊さんのユーモアあふれる軽快な解説を聞くことができました。小布施の食といえば栗です。昼食は全員で栗おこわ、そのあとの街中散策では、おしゃれな街かどでまったりと珈琲にお蕎麦のように盛られたようなモンブランを楽しむ参加者の姿も見られました。おしゃれいっぱい、美意識いっぱい、町づくりの巧さを感じながら、おいしくゆったりと時間が流れていきました。



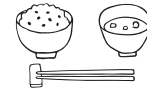
学生の感想



普段ゆめでは地域の子どもたちと関わることをメインでやっているのですが、おばあちゃん・おじいちゃん世代の方と交流はすごく新鮮でした。1年生の頃と比べたら、自ら進んでお話できるようになったり、広い視野を持てるようになって、これまでのゆめを通して出会った様々な人との出会いや活動を通して自分自身に成長を感じた瞬間で嬉しかったです。(観光3年 中垣美希)



2月 もち米と四賀地区を結ぶ憩いのサロン ～美味しいお赤飯と人情を堪能～



今 今年度最後の「ONETEAM」が2月27日（木）に松本市四賀地区「板場公民館」で行われ学生9名他、四賀地区の住民など約15名が参加しました。

今回は、相澤病院の理学療法士の方もお見えになり、始めに健康教室を行いました。筋力の衰えを防ぐには適度な運動、特に下半身を中心とした軽めの筋力トレーニングが大切だと学び、学生たちも真剣に耳を傾けていました。

その後、四賀の棚田で学生が田植えと稲刈りをしたもち米で出来たお赤飯と豚汁、手作りのお漬物などをいただきました。地元のお年寄りたちとの会話に花を咲かせながら、美味しく楽しい時間を堪能しました。

午後は、フィンランド発祥のスポーツ「モルック」と「ペタンク」で体を動かし交流を深めました。食べて、体を動かして、そして四賀の味と人情を堪能し、充実した1日となりました。



学生の感想



地域の人々の交流会に参加し、共に時間を共有することで、私達もその地域に属する人間なのだと改めて認識できた。また、問題としてご年配の方々の生きがい発見や健康意識の普及の難しさも、直接話すことでよく理解できた。地域の過疎化が進む中、どのようにしてそれを改善していくか深く考えさせられた活動だった。
(観光2年 高橋諒太)

2月 四賀の皆様との交流会 ～音楽と笑いと踊りを楽しむ～



松 松本大学が四賀地区で活動を始めて5年余り経ちました。四賀地区でもボランティア感謝祭が今年度はなかったことから、大学生と四賀の皆様との交流会を実施して楽しんで頂ける「ひととき」を実施することになりました。大学生はハンドベルの演奏とコーラスsolaeの合奏を行い、地区の皆様は数字あてゲーム、全員で信濃の国と四賀秀麗の合唱、最後にフォークダンスを踊りました。笑いあり、歌あり、踊りありと老いも若きも童心に帰り、地区の皆様

と大学生が一つの輪になりとっても楽しい半日を過ごしました。ハンドベルを発表した学生は失敗に悔し涙を流すも、盛り上がりで喝采と達成感に感動していました。Solaeの皆さんの合唱も昭和歌謡を織り交ぜながら暖かなハーモニーで地区の人達との交流を楽しませてくれました。最後のフォークダンスを踊る姿は青春そのものでした。



学生の感想



地域の方に教えていただきながら始まった活動です。プロジェクトではない活動でも、声をかけあったメンバーで集まって練習をし、素晴らしい演奏に仕上がったと思っています。全員で1つの曲を作り上げるため、活動内で仲も深まりとてもよい経験をさせていただきました。教えていただいた先生にはとても感謝しています！
(観光3年 大原さくら)





大学祭で深まる絆 ~梓乃森祭~



10月19日・20日に「梓乃森祭」が開催されました。『ゆめ』では昨年好評であった「はしまき」を販売。はしまきはお好み焼きを割箸に巻いたもので、食べ歩きしやすいのも特徴です。経験者の先輩たちが後輩に教えながら調理し、呼び込みも熱が入っていました。また、教室展示では各プロジェクトの活動紹介をしました。それぞれ個性あふれる模造紙を作成し、また教室には活動写真をガーランドのように飾りつけ、楽しい雰囲気の展示になりました。大学祭当日までの期間もみんなで協力し合い打合せや準備を進めている様子も、学生生活ならではの青春を感じました。



学生の感想



模擬店では、昨年に引き続き「はしまき」を販売しました。この日のために、ゆめのメンバーで販売方法やトッピングの工夫を重ね、目を引くPOPや看板も準備しました。当日は熱意あふれる呼び込みに加え、お客さんの口コミも広がり大盛況となりました。準備から当日まで大変でしたが、多くのお客さんに楽しんでもらえたことが何より嬉しかったです！ (栄養4年 曾根原俊)

『ゆめ』いっぱいの本をプレゼント ~サンタ・プロジェクト・まつもと~



サンタ・プロジェクト・まつもとの活動は、今年度も秋口から年末にかけて精力的に行いました。9月には新潟市で「サンタ・サミット2024」が5年ぶりに完全対面で8団体から約30名が参加して開催されました。本学からも4名の学生が参加し、日頃の活動の様子などを報告し活発な意見交換や交流を行いました。他団体の活動も大変参考なり、今後の活動に大きな刺激を受けました。

また、12月には恒例の子供たちへの本の寄贈を行いました。今年は約400冊の本が寄付され、松本地域の病院や児童福祉施設、特別支援学校など10施設に届けました。学生たちは温かなメッセージを書いたカードも添え、毎年楽しみにしている子供たちの元へ本を届け、子供たちも心のこもったクリスマスプレゼントに大喜び。学生も、喜んでくれる子供たちの姿を見て充実した笑顔に満ち溢れていました。



学生の感想



今年は多くの新入生に加入してもらえ、様々な活動を行うことができました。特に、新潟で開催されたサンタサミットでは他のサンタ・プロジェクトの方と交流し、充実した時間を過ごせました。そして、今年も多くの子供たちへ本を贈ることができて嬉しかったです。

来年度もメンバーとともに楽しく活動していきたいです。

(観光2年 手塚春花)



ええじゃん栄村

地域の特色を体験!

ええじゃん栄村の後期の活動として、秋の普請、古道ウォーク & こんにやく作り、どうろく神がありました。秋の普請は水路に溜まった落ち葉をすくい上げて水路をきれいにし、雪溶け水が流れていくように備えます。古道ウォークでは善光寺街道を色々な植物を教えてもらいながら散策しました。その日は特産品であるこんにやく作りも体験し、こんにやく芋からこんにやくになるまでの過程に学生は興味津々でした。どうろく神は、どんど焼きや三九郎のことで、無病息災を祈ります。前日入りし、書初めをしたり、みんなで料理やレクリエーションをし、交流を深めました。当日は子どもたちと思いきり雪遊びをしたり雪をかいたり、地域行事と雪を堪能しました。



学生の感想



私は今回初めて古道ウォークやどうろく神に参加させていただきました。古道ウォークでは森林の中を歩いたり初めてのこんにやく作りをしたり自然を感じる場面がたくさんありました。どうろく神では学生や地域の方々とは火を囲んで話したり雪で干支の像を作ったり、普段の生活ではできないことをたくさん経験できました。どの活動もたくさんの交流があり、地域の方々の優しさを感じました。
(観光1年 倉科歩未)



『支援会ゆにまる』が アイシティ21「バレンタインスイーツフェア」にて ビジネスチャレンジ



2月1日(土)・2日(日)アイシティ21にて高大合同販売「バレンタインスイーツフェア」が開催されました。「支援会ゆにまる」が、朝日村産ピーツと安曇野産チーズを素材としてプロデュースしてきたダブルチーズケーキ「あさひのルビーフロマーージュ」を販売しました。

「ゆにまる」は商業を学ぶ高校生が、地域ビジネスの実験・実証をする夏の恒例イベント「デパートゆにっと」をサポートする大学生の支援団体です。今回のイベントは次年度の「デパートゆにっと」の前哨戦に位置づけて例年開催されており、バレンタインデーを機会に開発期間が短くても商品化できるスイーツを主たるテーマにしています。県内各地の高校6校とそれぞれの地域資源を活用したスイーツ等を販売しました。今回の「ゆにまる」は、商品構成にピースケーキ5個分のホールケーキを加え、販売促進にもプロのデザイナーによるPOPやパッケージ等を制作しています。12月には「ゆにまる」単独でアイシティ21において他のケーキショップとの並びでテストマーケティングを行いました。それに基づき、今回はバレンタイン商戦で多くの店舗がひしめくショッピングモールでのビジネスにチャレンジしました。賑わう人波の中で商品の開発ストーリーを語りかけ、共感をいただき多くの商品をお買いあげいただきました。



学生の感想



バレンタインスイーツ販売会で私たち「ゆにまる」が開発した商品を実際に販売してみました。初めは声が小さく販売につながらないこともあったように思います。午後からはケーキの魅力やお客様に興味をもってもらえるようにピーツについて説明をしたりして、お客様に興味を持ってもらえるように工夫をしました。多くのお客様に共感をもっていただけたと思います。また、一緒に取り組んだ高校生達もアピールポイントを簡潔にまとめて宣伝を行っていたので、それをブラッシュアップして今後の販売機会にも活かせるようにサポートしていきたいと思いました。
(松商短大1年 山本美羽)

学生プロジェクト 「あるぷすタウン」

やりました。
スタッフのみんな
がんばりました

「信号よし、前進オーライ」・「新郎新婦入場です」電車の運転手・結婚式の司会も元気な子供の声で始まりました。第7回「あるぷすタウン」は、200名近い小学生が参加して就労と消費を学ぶ仕組みを大学生が企画して行われました。地域の皆様と企業の方のご協力で15の職業ブースで仮想通貨 yume を稼ぎ、8箇所のアカデミーブースや小売店でお菓子を買うなど貨幣の流れを学習する機会となりました。企業の方と密接に打ち合わせを行い、開店準備も安全で安心な職業体験の場となるように工夫され、年々リアリティが増している取り組みになりました。小学生は「楽しかった、来年も来たい」「スタッフの皆さんありがとう」感謝とねぎらいの感想がほとんどでした。保護者は「どこのブースもよく考えられていた」「学生も子供もとても楽しそうに真剣に取り組んでいる様子を見ることができた」など感想を頂きました。大学生の感想も「年々協力体制ができ、マツナビ、『ゆめ』の他のプロジェクト、企業・消防などの専門職の皆さん、そして地域の方の支えがあって成り立っていることに感動した」「大変だったけど小学生が喜んでくれて意義のある活動となった」と満足の表情を浮かべていました。



信号よし！ 出発進行！



病める時も健やかなる時も
幸せにすることを誓います



それでは結婚の証明書に
署名をしてください



只今から緊急連絡を行います



これから現場検証に行ってもらおう



はい、五平餅いかがですか。おいしいよ



おいしいコーヒーが淹れられるかな



犯人の指紋はどれだ



手話で「はじめまして」



ゴム鉄砲うまく飛ばかな



おかあさんに
アロマの癒しを
あげるんだ



目指せ書道パフォーマンス



おじいちゃん、すごい技だね！



給料を
もらいたいのですが…



街をきれいに。
これも大切な仕事です



きれいなポストカード
作って送るんだ



フラワーアレンジメント学んでプレゼント

ウーウー
火事だー(訓練)



サイコロを使って人生ゲーム。
保険に入っていてよかったね



お買い上げありがとうございます



学生の感想

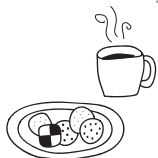


あるぶすタウンは開催7回目となり、プロジェクトとしては10周年を迎えました。昨年は、運営の経験者が誰もいない不安から始まりましたが、今年は、昨年の経験やご縁を大切に1年間活動してきました。昨年もご協力頂いた専門家の皆さんには、子ども達のために新たな企画をメンバーと共に考えて頂きました。プロジェクトメンバーのやる気だけでなく、専門家の皆さんもこの活動に対して本気になってくれている事を実感しました。

参加した子どもは両日合わせて180名となり、中には昨年から2回目の子とも多くいました。今年は『ゆめ』を越えて、学内の学生団体とも連携をし、今年も新たな繋がりを得られたと感じます。企画から開催に関して、あるぶすタウンに関わってくださった多くの方々へ、心より御礼を申し上げます。

(あるぶすタウンリーダー 観光4年 飛鳥里香)

信州みんなの食堂の紹介



「珈琲ひまわり」が開催されている新村地区の元レストラン「旧アンダンテ」は、こども食堂としても有意義な活動を行っています。活動を主催する下里かおりさんからその様子を記載していただきました。当施設は授業やゼミ活動としての利用も可能ですので参考にしてください。



2023年3月、こども食堂「信州みんなの食堂」を始めました。市の「こどもの居場所づくり推進事業」給付金を受けているので、18歳以下の子どもへの食事提供は無料です。

当事業では上限が設けられており、年間52回までしか給付金が下りません。慈善事業であることから、こども食堂は週1回まで。学校帰りの子どもたちが参加しやすいように、毎週水曜日に固定して開催しています。学校の放課後にオープン、宿題をしたり遊んだりして過ごします。午後5時から配膳が始まり、その日厨房で作った出来立ての温かい料理が食べられます。子どもの参加者は1回に30人から40人ほど。ボランティアスタッフは、高校生や松本大学の学生、地域住民の方など約10人が参加しています。



元レストランなので、厨房設備の他に客席やカウンターキッチンもあります。昨年4月から「珈琲ひまわり」が毎月1回から2回開かれています。今後は、その他にもゼミや会議、調理などの活動場所としてご利用いただければ幸いです。



地域づくり考房『ゆめ』の20周年に想う



地域づくり考房『ゆめ』は、『結芽』(地域のニーズを結ぶ場所)と『夢』と『遊眼』(遊び心の視点を持つ眼)の三つの願いを名称に込めながら、2005年に学生の地域活動の支援拠点として活動を始めました。その間、新村地区をはじめ多くの地域との交流を広げながら、今年で20周年を迎えることになりました。地域活動を通じて学生が主体的に問題を発見し解を見いだしていく能動的学習は、本学開学当初から重視されてきました。国の中央教育審議会において「アクティブ・ラーニング」という言葉が登場したのは2012年ですが、すでに『ゆめ』では、2006年に能動的学びをめざした13のプロジェクトが動き出しています。

この20年の間に地域社会が抱える課題は、コミュニティの崩壊という形で更に多様化しています。ユヴァル・ノア・ハラリ(『サピエンス全史』)の言葉を借りれば、「これまでの人類に降りかかった激変の中でコミュニティの崩壊は、最大の社会変革」であり、人類史上稀にみる変化ともいえるようです。教育や福祉、少子化や高齢化など、身の回りで起こっている今の社会問題の根っこは、このコミュニ

ティの崩壊から始まっているのではないのでしょうか。どんなに速い乗り物を、どんなに便利な機器ができて、人類が百万年以上前から築き上げた暮らし方を産業革命以後変わらずか2世紀あまりで変えた、「コミュニティの崩壊」という変革の後始末はどこでつけていくのでしょうか。

地域づくり考房『ゆめ』では、地域活動を通じて次代を担う若者にコミュニティの素晴らしさを感じてもらい、そこに「ゆめ」を託すことを目指してきました。知識の切り売りの価値が低下するなかで、知識を成熟させ再生産する知恵の活用が叫ばれています。そのため、教室が地域であり、地域の人々はかけがえのない師にもなります。学びの場は学校だけではなく、学びの期間は学生時代だけではなくありません。人生を通して学ぶ姿勢を保つことの大切さを『ゆめ』の活動を通じて多くの学生が体感しています。これからも、地域づくり考房『ゆめ』は、心身ともに幸福で生きがいを感じる(ウェルビーイングな)人生を歩める若者のための活動を進めていきます。

(専門員 大野 整)

お問い合わせ

松本大学 地域づくり考房『ゆめ』

〒390-1295 長野県松本市新村2095-1 松本大学内7号館2階
 開館日時: 月~金 10:00~18:00
 TEL: 0263-48-7213 FAX: 0263-48-7216
 E-mail: community@t.matsu.ac.jp



<https://www.matsumoto-u.ac.jp/yume/>

